

ツツジ類

ツツジ科の植物と言えば、アセビやネジキなど多くの種類がありますが、誰が見てもツツジと分かるものは、ハイヅカ湖周辺に 4 種が自生しています。開花の順にご紹介しましょう。

新緑が萌え出る前に、山すそをピンクに染めるツツジは、コバノミツバツツジ。漢字で書けば「小葉の三葉躑躅」



です。例年ならもうすっかり花が散っているころですが、今年はまだ咲き残っているようです。

続いてピンクの花を咲かせるのがキシツツジ。川岸の岩場に自生するので「岸躑躅」と名づけられました。護岸の整備による自然河岸の減少にともない、存続が危ぶまれています。ハイヅカ湖周辺で見られる群生地は、仁賀交差点付近のみで、あとは孤立した株が点在しているだけです。メダカ池の岸边には、数株を水没地から移植しています。

次に咲くのはオレンジ色のレンゲツツジ（写真）。放牧地などに多いツツジですが、ハイヅカ湖周辺の山すそにも点在しています。まれに黄色い花を咲かせるものがありますが、盗掘によりほとんど残ってないようです。せめて種子か挿し穂の採取にとどめておきたいものです。

最後に咲くのが、初夏を告げるヤマツツジです。刈り込みによく耐えるので、道路ぎわや墓地のまわりで、地面に這いつくばうように朱紅色の花を咲かせます。